

旧岩崎邸庭園（洋館）

近隣
散策



写真1 旧岩崎邸庭園（洋館） 外観

旧岩崎邸庭園は、1896（明治29）年に三菱三代社長の岩崎久彌の本邸として造られた。往時は約15,000坪の敷地に20棟もの建物が並んでいたが、戦後GHQの接収、その後の返還で用途に合わせた大幅な改変・解体、老朽化による取り壊し、都市開発による土地の売却などを経て、現存するのは国の重要文化財に指定され保存対象となった3棟、「洋館」（写真1）、「撞球室」、「和館の大広間部分」のみである。

「洋館」は、英国人ジョサイア・コンドルの設計で、近代日本住宅を代表する西洋木造建築である。まず来訪者を出迎えるのは、異国情緒を漂わせた南国風の椰子の木の植栽である。当時、南国植物は西洋・モダンの象徴とされていたため、洋館の外観をより西洋らしく見せるための景観設計であったとされている。館内は、随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施され、特に1階ホールの支柱の彫刻と大階段の挽物の手摺子が印象的である（写真2）。他にも特注品など贅を尽くした壁紙や天井、床タイルなどの室内装飾の数々が、館内各所に設置された案内版と共に当時のまを直接見て知ることが出来る。

ベランダから眺める広大な芝庭や、部屋の窓越しに見える樹齢400年以上の大イチョウの眺望は、外界の喧噪を避けノスタルジックを感じさせる。



写真2 支柱と手摺子